

# 要 望 書

国道 10 号の整備推進について

令和 7 年 1 1 月

鹿児島県議会国道 10 号整備促進議員連盟



## 国道10号の整備推進について

本県の国道整備の推進につきましては、平素から格別の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

国道10号については、これまで、国において、加治木バイパスなどの整備が行われ、周辺地域から九州縦貫自動車道、東九州自動車道へのアクセス強化や交通混雑の緩和が図られたところです。また、近年は、姶良市の大型商業施設の増設や霧島市の京セラ国分工場が増設されるなど、国道10号の整備とともに、沿線の企業立地が進んでおり、今後、更なる地域経済の発展が期待されております。

あわせて、鹿児島市磯<sup>いそ</sup>地区においては、世界文化遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つである「旧集成館」があることや、令和7年3月のJR仙巖園駅の開業により、観光客がさらに増加しているところです。

しかしながら、地形的な制約により、姶良市方面から県都鹿児島市へ流入するルートが限られているため、特に通勤・通学時には交通量が多く、慢性的な交通渋滞が発生しているほか、交通事故も多発しており、交通渋滞の解消及び交通安全の確保を図る道路整備が求められています。

このような中、鹿児島市吉野町花倉から同市小川町を「鹿児島北バイパス」として事業が行われており、現在、花倉地区において道路改良工事などが進められています。

また、姶良市脇元から鹿児島市吉野町字上<sup>うへ</sup>ノ村間においては、「白浜拡幅」として4車線化の整備が進められており、このうち脇元から白浜間において、現在、道路拡幅のための護岸整備工事などが進められております。

国道10号における「鹿児島北バイパス」及び「白浜拡幅」の両事業については、早期供用が望まれています。

令和7年8月の大雨では、姶良市網掛橋の護岸や橋梁基礎の洗掘、姶良市日木山地区の国道上部斜面の崩壊などによる通行止めが発生したところであり、近年の激甚化、頻発化す

る災害による脅威に対応するため、平常時・災害時を問わず、安定的な人流・物流を支える広域ネットワークの構築に集中的に取り組む必要があります。

また、インフラ投資による公共事業の実施は雇用を生み出し、地域経済の活性化等につながるものであると考えます。

つきましては、かかる事情を御賢察いただき、次の事項について特段の御高配を賜りますようお願い申し上げます。

- 鹿児島北バイパス、白浜拡幅について、早期供用を目指し、整備を推進するため、必要な予算を確保すること。
- 曾於市の深川交差点の改良や野久美田自転車通行空間整備など交通安全対策事業の早期完成を図るため、必要な予算を確保すること。
- 「重要物流道路」としての国道１０号について、事業中区間の重点整備を図ること。
- 国土強靱化実施中期計画を踏まえた関係予算については、予算編成過程で資材価格等の高騰等の影響を適切に反映し、頻発する災害も踏まえ、通常道路予算とは別枠で必要な予算を満額確保すること。
- 地方創生を実現し、日本経済の活力を取り戻すため、資材価格などの上昇に対応する中でも計画的かつ長期安定的な道路整備・管理が進められるよう、新たな財源の創設等により、令和８年度道路関係予算は、所要額を満額確保すること。  
また、道路施策の推進のため、国土強靱化のみならず、我が国の成長力及び国際競争力の強化、さらには生産性の向上の観点からも地域経済を支えるため、令和７年度補正予算を速やかに編成すること。

- 大規模自然災害に即応するための地方整備局などの体制強化や必要となる資機材の更なる確保に取り組むこと。

令和 7 年 1 1 月

鹿児島県議会国道 1 0 号整備促進議員連盟

会長 藤崎 剛

## 鹿児島県議会国道10号整備促進議員連盟会員

会 長	藤崎 剛
副 会 長	瀬戸口 三郎
副 会 長	柳 誠子
幹 事	松田 浩孝
幹 事	秋丸 健一郎
幹 事	平原 志保
幹 事	湯浅 慎太郎
事務局長	いぬぶし 浩幸
顧 問	山田 国治
顧 問	田之上 耕三

本田 しずか	内田 一樹	元山 ひさや
角野 毅	岩重 あや	池畑 知行
柴立 鉄平	寿 はじめ	森 昭男
いわしげ 仁子	宝来 良治	伊藤 浩樹
上山 貞茂	おさだ 康秀	ふくし山 ノブスケ
寺田 洋一	小園 しげよし	永井 章義
鶴園 真佐彦	鶴田 志郎	日高 滋
外園 勝蔵	松里 保廣	

- **沿線地域の定住人口が増加！**  
県都鹿児島市のベッドタウンとなる「姶良市」では定住人口が増加中。
- **企業立地が進展！**  
姶良・伊佐地域では企業立地が進み、新たな雇用を創出。

